

道徳授業に対する教師の印象・悩みおよび特に意識していること
—小・中学校教員調査の結果から—

範 蘭心（東京学芸大学）

1. はじめに

特別の教科である道徳科の計画的な実施の開始から数年が経過し、その一層の充実が求められている。本研究はこの課題に生かす資料とするため、全国の小・中学校で毎週の道徳授業に取り組む教師の授業に対する印象や悩み、意識等を明らかにすることを目的とした。

2. 調査方法

■調査対象 系統抽出法を用いて、全国学校リストより小学校、中学校、義務教育学校と中等教育学校計 2500 校を抽出し、可能ならば複数の教員が回答してもらうよう依頼した。

■調査方法と時期 郵送法を用いてアンケート調査を行い、Google Form によって回答を収集した。令和 7 年 1 月 12 日に調査対象校に「道徳教育に関するアンケートへのご協力をお願い」を郵送し、回答期限は令和 7 年 2 月の末日までとした。

■調査内容 調査協力者に、①回答者が勤務する学校種や担任する学年などの状況、②普段行っている道徳授業に対する印象（4 件法）、③道徳授業を毎週行う中で役に立つと感じること（4 件法）、④道徳授業を実施する中で悩んでいること（自由記述）、⑤道徳授業で、他の教科と違って特に意識していることや実践していること（自由記述）、について尋ねた。

3. 結果・考察

■回答者の属性および勤務校状況

合計 1147 件の回答が収集でき、担当する学校・学年段階によって小学校教員と中学校教員に分けたところ、小学校段階の教員は 676 名で、中学校段階の教員は 471 名であった。

以下、調査の集計結果より、その一部を示し、その回答傾向を検討する。

■道徳授業に対する印象

調査協力者が普段行っている道徳授業に対する印象の統計結果について、図 1 に示した。

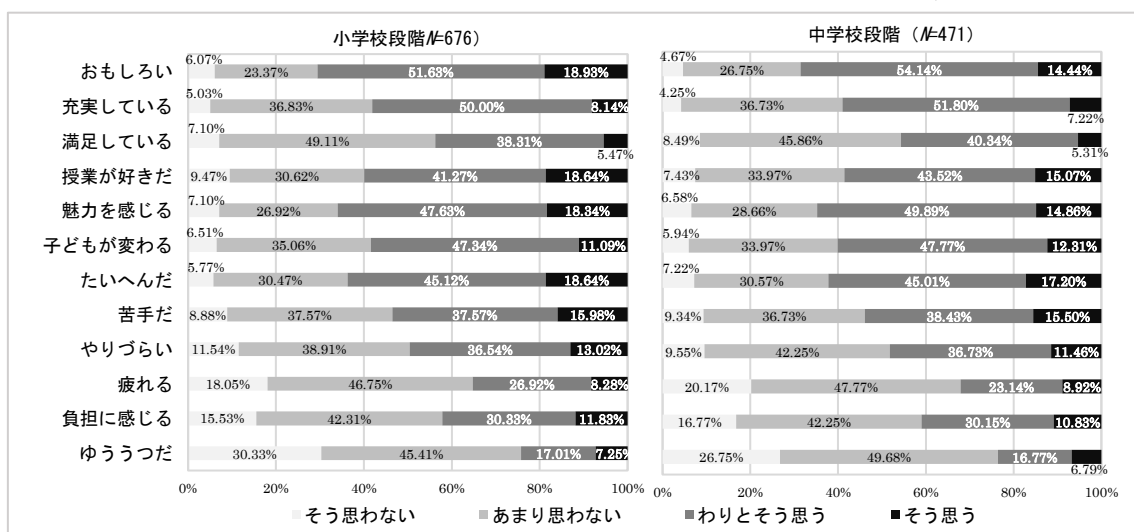


図 1 道徳授業に対して教師がもつ印象（小・中学校段階別）

前半のポジティブな印象項目のうち、「おもしろい」や「魅力を感じる」に対して肯定的

に回答した教員は、小・中学校ともに6割を超えており、道徳授業に対して好意的な印象をもつ教員が多いことが示された。しかし、「満足している」の割合は5割を下回り、教員が道徳授業に対して魅力を感じている一方で、授業の内容や実施に対する満足感は相対的に低いことが示された。後半のネガティブな印象に関しては、道徳授業を「たいへんだ」「苦手だ」と感じる教員が半数を超えたものの、「疲れる」や「ゆううつだ」といった否定的感情を示す教員は半数以下にとどまり、相対的にストレスや心理的負担とまでは捉えていないこともうかがえる。なお、上記以外のクロス集計の詳細結果については当日に報告する。

■道徳授業を毎週行う中で役に立つと感じること

調査協力者が道徳授業を毎週進めることによって、役に立つと感じていることの統計結果について、図2に示した。項目間の相関分析の結果、道徳授業が「自制心の向上」に役に立つと思う教員は、「いじめや非行の防止」や「規範意識の向上」などについても役に立つと感じる傾向が強いことがわかった。さらに分析した結果については、当日の報告にて示す。

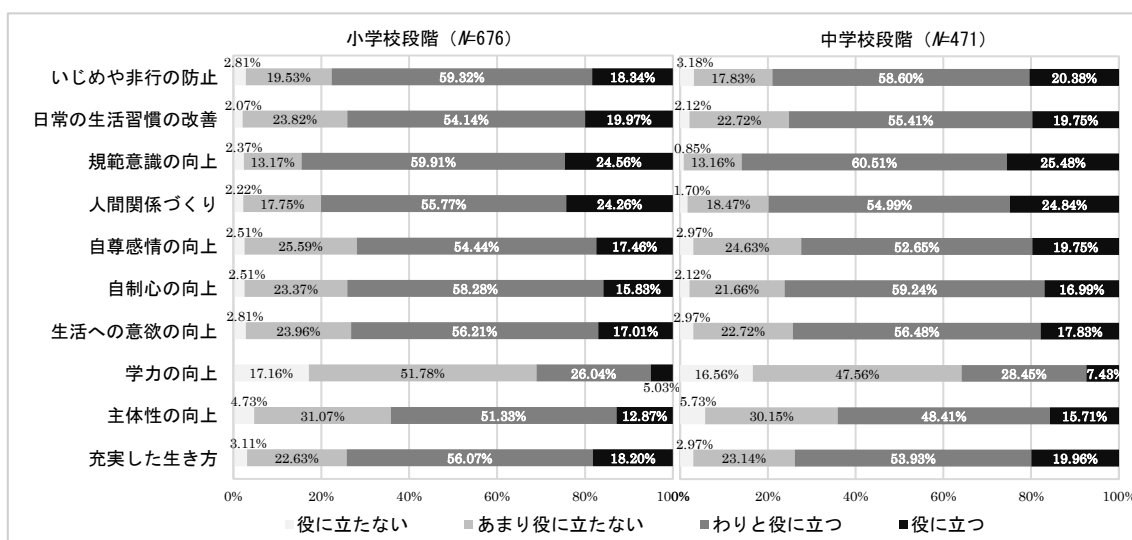


図2 道徳授業を毎週行う中で教師が役に立つと感じること（小・中学校段階別）

■道徳授業を実施する上での悩み

教師が「道徳授業を実施する中で悩んでいること」についての自由記述を整理した結果、授業準備に関しては「時間的ゆとりがない」といった課題等が多くあげられ、指導方法に関しては、「発問方法が分からない」や「子どもへの対応が難しい」といった声が多くみられた。また授業後についても、「授業の効果を感じられない」「伝えたいことが子どもに伝わっているか不安」といった記述が多くみられた。これらの結果から、教員が抱える悩みの傾向を把握することができた。そのカテゴリー化の詳細については当日に報告する。

■道徳授業で特に意識していることや実践していること

教師の「道徳授業で、他の教科と違って特に意識していることや実践していること」の回答傾向の特徴およびカテゴリー化の結果は、紙幅の関係で当日の報告の中にて示す。

4. おわりに

本研究によって、全国の小・中学校段階の教師が道徳授業に対する印象や、実施する中での悩み、さらに、他の教科と違って特に意識していることの傾向について把握することができた。これらの悩み等を改善・解決するためのあり方は、今後の重要な検討課題となる。

※本研究は、本学の上廣道徳・倫理教育研究開発推進室における取組の一つです。